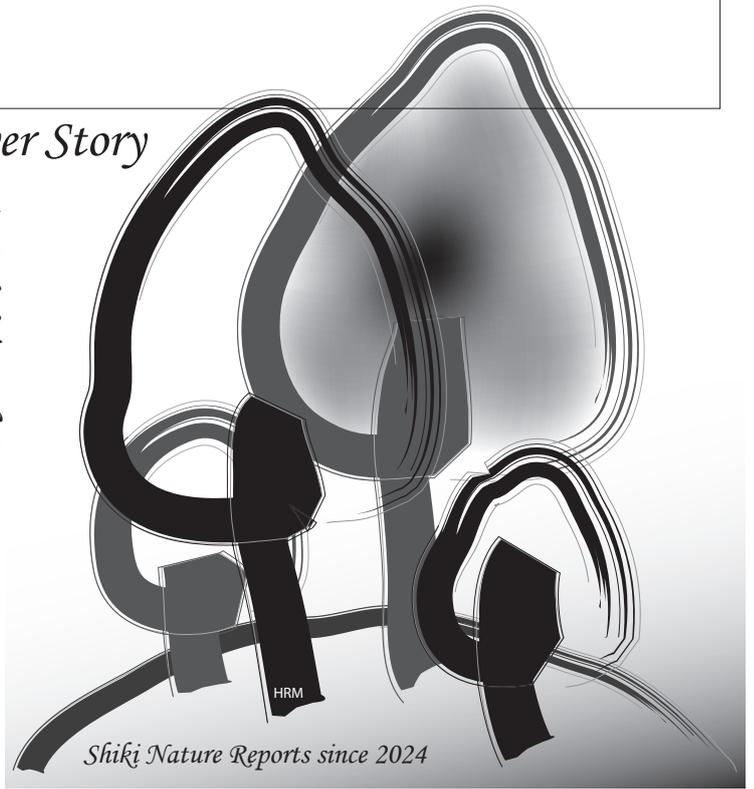


【夏の句】

炎帝よ雲一つさえ恵まない
蝉の声ワットドゥーユーミンミン
使い回し空で戻った日焼け止め
汗落ちてソ軸座標一直線
鬼百合や角が七本下に向く
夏草をぐいと踏み込む松景杖
五月雨に溶ける色んなオノマトペ
夏草をぐいと踏み込む松景杖
梅雨入りや雨が冷たい試験前
目に映る雲は眩しき芒種かな
蟻でさえ三割サボる真似てみる
枇杷をむきベタついた手をふくズボン
若楓光彩館に風仰ぐ

田中康貴 東條莞典 雑賀蒼太郎 本島健汰 本田健朔 川西稜 山本航太郎 山田隼士 上野陸 野口友輝 清水耀介 太田青銘

Cover Story



(Maekita)

【お香と植物⑤】 涼やかな香りが魅力の「龍脳」

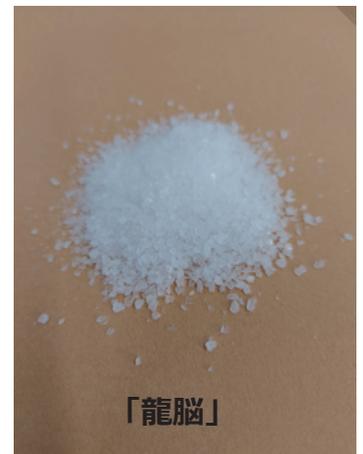
Incense

日本では古くからお香を用いる文化があります。お香の原料は主に中国や東南アジアで採れる植物で、基本的にはそれを乾燥させて使うので、細かい木片や市販の茶葉のような見た目をしていることが多いです。一方、今回ご紹介する「龍脳」という香料はちょっと趣が違います。写真(右下)を見れば分かるように、龍脳は白い結晶状の香原料です。これはフタバガキ科の龍脳樹から染み出る成分が結晶化したものです。ただし現在、龍脳樹は大変希少で天然の龍脳は産出量が極めて少ないため、楠から採れる成分を利用して龍脳を精製しています。

龍の脳という名を持つ通り、非常に貴重で高価な香料として扱われてきましたが、お香づくりにはなくてはならない香りです。スーッと清涼感を感じさせる芳香なので、夏のお香にはぴったりですし、防虫効果もあるため防虫香に使われたりもします。また、人によっては龍脳を嗅ぐと「龍角散」の香りっぽいという感想を持つようです。

のどの炎症や痛みにも効果がある龍角散。現在の龍角散には龍脳は使われていませんが、実は初期の処方には龍脳が入っていました。龍角散のwebサイトには「龍角散の歴史」(<https://www.ryukakusan.co.jp/history>)が載っていますが、それによると、龍角散の原型は江戸中期に作られ、その後明治初期に創業し、龍角散という名で販売を開始させたそうです。龍角散という名前は、初期の処方に「龍骨」「鹿角霜」「龍脳」が使われたことに由来するとのこと。ちなみに、龍脳には去痰薬や強心剤などの効果があるため、「救心」という動悸・気つけに効果がある生薬製剤にも配合されています。

お香以外にも薬として珍重されてきた龍脳。暑さが厳しい夏は、龍脳のようにすっきりする香りを身にまとうと、涼やかな気持ちになれるかもしれませんね。



(Inoura)

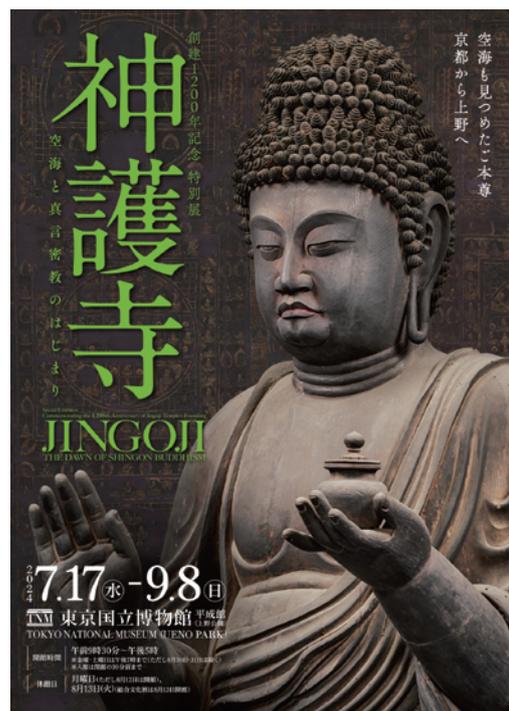
1年生と一部の3年生には授業で紹介した（もしくはこれからする）通り、今週から上野の東京国立博物館で、特別展「神護寺—空海と真言密教のはじまり」が開催されている（9月8日まで）。京都の北郊にある紅葉の名所、高雄山神護寺の文化財を一堂に展示する大規模な展覧会である。授業では伝源頼朝像を取り上げたが、ここでは、チラシ（左下）のメインビジュアルにもなっている薬師如来立像に注目したい。平安時代初期を代表する彫刻として国宝に指定され、日本史の教科書や図説にも載る著名な像だが、寺外で公開されるのは初めてのことである。

神護寺は今から1200年前、天長元年（824）に高雄山寺と神願寺という2つの寺院が合併して成立した。薬師像は『神護寺略記』という史料から、天長元年以前に造られ、この2寺のどちらかに安置されていたことが分かっている。高雄山寺はいまの神護寺の地にあり、「密教」という新しい仏教をマスターして唐から帰国した空海が、平安京の周辺で最初の拠点にした寺院である。一方の神願寺は、道鏡事件で皇統を救ったと見なされ、戦前にはお札の肖像にもなった和氣清麻呂が、八幡神という神の願いをかなえるために建てた寺院だが、どこにあったのかは分かっていない。薬師像がどちらの像であったのか、研究者の間で長く議論があったが、現在では神願寺から高雄に移されたとの説が有力である。

史上有名な道鏡事件の顛末は次の通り。奈良時代、僧道鏡は女帝称徳天皇のもとで異例の高位に就く。その上、「道鏡を天皇にすれば天下は太平になるだろう」との神託（神のお告げ）があったという報告が天皇に届き、これを確かめるため、八幡神の鎮座する宇佐（いまの大分県宇佐市）へ天皇の腹心であった和氣清麻呂が派遣される。しかし、清麻呂は「皇位には必ず天皇の血筋の者を立てよ」との神託を持ち帰り、道鏡は天皇になれず、（おそらく天皇の期待に背いた）清麻呂は流罪になる。

清麻呂はこの時、八幡神から寺院建立と仏像造立の願いを託されたと伝えられ、称徳天皇の没後、中央政界に復帰した清麻呂は八幡神の願いを実現する。それが神願寺であり、この薬師像なのである。

以上、造立の経緯も興味深いですが、この薬師像が著名な一番の理由は、その個性的なかたちにある。仏教はしばしば仏の慈悲を強調するが、古代の仏像は大概それほど穏やかな顔をしていない。しかし、上瞼が屈曲し、口角が下がったこの像の顔貌は、古代の仏像の中でも特に厳しく感じられ、その意味について研究者は頭を悩ませてきた。道鏡は下野国（いまの栃木県）に左遷されてその地で亡くなったので、道鏡の怨霊と対決するための説も出されたが、いまは否定されている（ホトケは怨霊と対決したりしない）。

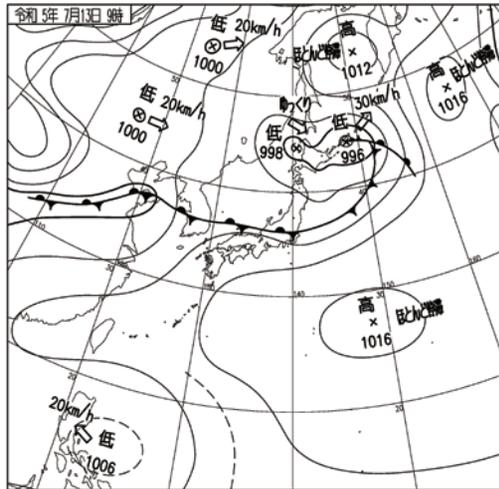


そもそも「神の願いによって寺や仏像を造る」「神の願いを人がかなえる」ことに違和感を覚える人もいるかも知れない。神社に参拝する現代人は「人の願いを神がかなえてくれる」と考えているはずだ。しかし、神仏への信仰のあり方は時代によって変化する。この像は1200年以上前の人々の信仰、その心の中を知るための貴重な手がかりなのである。

かつて八幡神は仏像の造立を願い（願ったと信じられ）、それを清麻呂がかなえた。神の願いにかなうように造られたのだとすれば、その表情にはどのような意味があるのか。展覧会場であらためて考えてみたい。

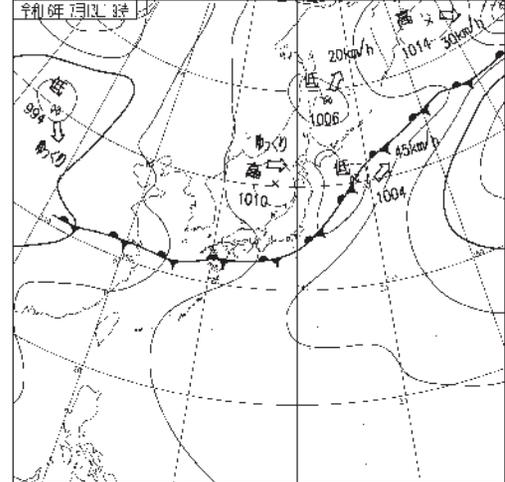
今年の関東地方の梅雨は大雨になった後には晴れて猛暑日となり、とても激しい変化が続いています。これは沖縄・奄美地方の梅雨と似ています。例年の東日本では、梅雨入り直後は梅雨寒（つゆぞむ）と言って、停滞したオホーツク海高気圧からの北東の風で肌寒い日が続きます（図1）。しかし今年はそのオホーツク海高気圧が見当たりません（図2）。その代わりに今年は移動性高気圧が日本列島を定期的に通っています。梅雨前線はこの移動性高気圧と夏の太平洋高気圧との間にあって、移動性高気圧が近づくと梅雨前線が南下し、高気圧が東の海上に去るにつれて梅雨前線が北上します。梅雨前線が関東地方を越えて北上すると、夏の太平洋高気圧に覆われ猛暑になります。再び西から移動性高気圧がやってくると梅雨前線が南下し、この高気圧が引き連れてきた上空の寒気により、大気が不安定となり大雨になることがあります。これが繰り返されることで、とても激しい気象の変化が続いているのです。

※もっと詳しいことを知りたい人は、自由選択科目の地学をぜひとってください！



【図1】2023年7月13日の地上天気図

オホーツク海高気圧が停滞し夏の太平洋高気圧をブロックしている。東日本はこの高気圧の影響を受け、梅雨入り直後は特に肌寒い。



【図2】2024年7月13日の地上天気図

移動性高気圧の通過により梅雨前線が南北に動く。これは沖縄・奄美地方でよくみられる。天気の変化はもともとオホーツク海高気圧の影響が少ない西日本と似ている。

(Higuchi)

「茶室だより」 No.02 涼を演出する 一葉蓋の扱い

Japanese-culture

今春運用を開始した「和室」では、その後、「社会C」の履修者諸君が、割稽古を経て、裏千家茶道の初歩の点前である「盆略点前」に取り組みました。その成果披露を兼ねて、7月5日（金）の放課後には、本校を訪問中の台湾・薇閣雙語高級中學の皆さん（生徒7名・教員2名）と本校側のホストブラザー・教員の前で、有志諸君による「盆略点前」の披露と茶道体験を実施しました。彼らの工夫のおかげで、参加者の皆さんも楽しまれていたようです。

ところで、茶の湯の世界にとって、夏は難しい季節。ただでさえ暑いのに、狭い茶室で湯を沸かし、温かいお茶を客に提供するのですから。とはいえ、何とか客に涼を感じてもらいたい。そこで、上記イベントでも、轟音を立てて落ちるさまを連想させる「瀧直下三千丈」の掛軸〔掛物〕や、お茶が冷めやすい「平茶碗」、涼しげなガラスの水指（=水を貯めておく道具）などの道具を取り合わせましたが、他方、点前でも涼が演出されます。裏千家茶道でも複数の夏の点前がありますが、その一つが、授業でも披露した「葉蓋の扱い」〔葉蓋点前〕。11代玄々斎精中（1810-77）の創案で、七夕の時期に、水指の蓋の代わりに梶・蓮などの葉を用いる薄茶点前です。本校ではホーム・ルーム棟南側（3年生側）の桐の葉を用いたのですが、果たして、履修者諸君は涼を感じてくれたでしょうか？

考えようによっては、亭主（=客を迎え、茶を点ててもてなす人。つまりホスト役）の心配りが見えやすいのは、実はこの時期なのかもしれません。



有志諸君（どうもありがとう!）



今月の床の間（桔梗）



葉蓋の扱い（本校の桐の葉を用いて）

(Ikeda)

校内にハイビスカスに似た花を咲かせる樹がある。あおい科フヨウ属に属する『ムクゲ』である。夏の代表的な茶花であり(詳しい話は池田先生に聞くと良い)、家庭の庭園や公園などに植栽されることも多い。一般には観賞用だが、薬用植物としての側面を紹介しておく。花、幹皮、果実を日干しにしたものを煎じて服用するのが一般的である。花は胃腸カタル・腸出血・下痢・嘔吐などに、果実は頭痛・偏頭痛・咳などに、幹皮は水虫やたむしに効果があるとされる。ステロール類を豊富に含むため、心血管疾患に効果が期待できる。因みに花言葉は「一途な心」、「信念」だそうである。

[2024年4月～2024年7月までの開花情報]

Grass

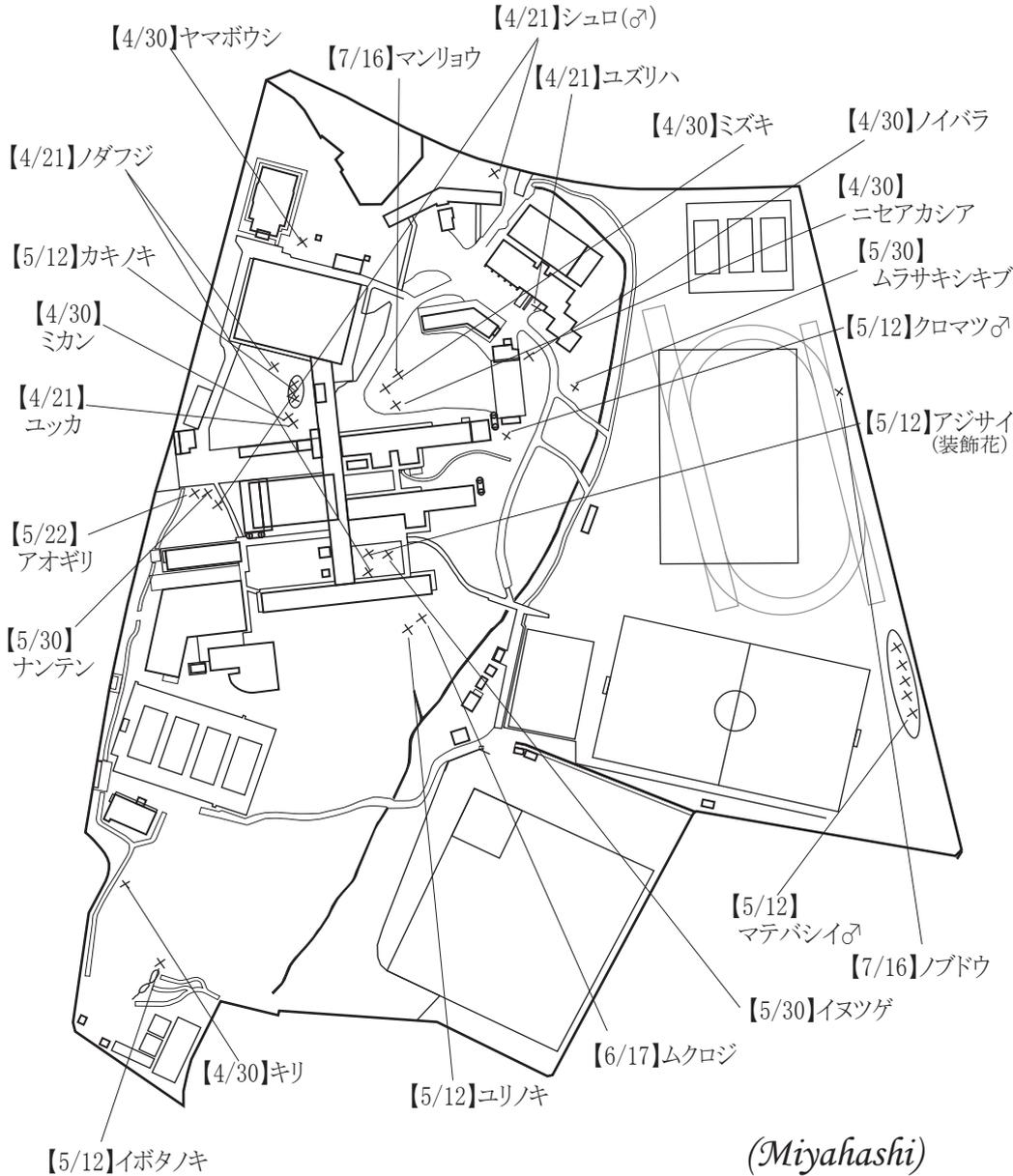
- 21. Apr. 2024 カモジグサ, アメリカフウロ, ムギクサ, コヒルガオ, タツナミソウ, ヤセウツボ, イヌホオヅキ, ナガミヒナゲシ
- 30. Apr. 2024 キツネアザミ, ハナヤエムグラ, ヨウシュヤマゴボウ, トキワツユクサ, オオバコ, ノビル, ウマゴヤシ
- 12. Mar. 2024 ヒメジョオン, スイカズラ, ヒメアザミ, イヌタデ, スイレン, アレチギシギシ, プライダルベール
- 19. Mar. 2024 スイカズラ
- 22. Mar. 2024 ヒメヒオウギ
- 30. Mar. 2024 ツユクサ
- 11. Jun. 2024 ヤブガラシ, アレチノギク, ネジバナ, チガヤ, ワルナスビ, スカシタゴボウ, シロザ
- 17. Jun. 2024 ハエドクソウ, メヒシバ, ミズヒキ, オヒシバ, ママコノシリヌグイ, ゴウシュウアリタソウ
- 7. Jul. 2024 コシキソウ, キツネノマゴ, ミツバ, ヤマノイモ, ヒメガマ, ヤブミョウガ, ヘクソカズラ, ヤマブドウ, シバクサ, オオマツヨイグサ
- 16. Jul. 2024 ヒドリジョウゴ, カラスウリ, ヒメヨモギ, アメリカオニアザミ, ツルニガクサ, ミョウガ, カントウヨメナ

*本校のムクゲは八重咲き



【ムクゲ】あおい科フヨウ属

Wood



(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前が出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	歴史・美術 (博物館)	原 浩史 (Hara)
	俳句	前北 馨 (Maekita)
	日本文化 (香道)	井之浦 茉里 (Inoura)
	日本文化 (茶道)	池田 卓也 (Ikeda)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)
	植物画・編集	荒巻 知子 (Aramaki)